

海外自治体幹部交流協力セミナー2016（パリ事務所管内）

地方交流事業概要

2016年7月21日（木）【移動（東京都→鶴岡市）、市長表敬訪問、行政説明】

参加者は鶴岡市へ到着後、榎本鶴岡市長を表敬訪問し、2016年6月にパリ水族館と相互協力の覚書を交わした鶴岡市立加茂水族館について話をした。行政説明では、まず鶴岡市がユネスコから日本で初めて認定された鶴岡の食文化を軸とした観光施策について説明を行った。その後、参加者4名が既存の自然や文化を生かした各自治体の観光施策を紹介した。初日にも関わらず、それぞれの施策についての質疑応答が活発に行われ、時間が足りず予定を変更するほどであった。参加者は興味深い内容であったと感想を述べていた。



2016年7月22日（金）【鶴岡市観光案内所、鶴岡駅、致道博物館、羽黒山視察】

（1）鶴岡市観光案内所及び鶴岡駅視察

参加者は鶴岡駅横の鶴岡市観光案内所を視察した。観光地の案内がパンフレットなどの紙媒体のみであったことに対して、参加者からネットを活用し、メールでの問い合わせも可能にするなど改善した方がよいと提案があった。予定にはなかったが、鶴岡駅長の計らいで鶴岡駅執務室内を視察させていただいた。時間通りに運行されている状況に参加者は大変驚いていた。

（2）致道博物館視察

庄内藩主酒井家の屋敷を博物館にした致道博物館の館長の説明を聞いたあと、参加者は抹茶体験をし、酒井氏庭園を眺めた。美しい庭園に参加者は大興奮し、写真を撮ったり庭園内を歩いてみたり楽しんでいた。

（3）羽黒山

出羽三山の1つである羽黒山では、修験道の修行の様子を写真や展示物で学んだあと、出羽三山神社まで歩いた。出羽三山神社では、昇殿参拝後に神官より神道や山伏の修行について説明があり、参加者は聞き入っていた。神社までの道中にあつた五重塔や滝を含め、羽黒山の精神性の高さに参加者は大変感動しており、このセミナーの中で最も好評の場所であった。



2016年7月23・24日（土・日）【ホームステイ】

2016年7月25日（月）【JA 鶴岡、善寶寺、加茂水族館視察】

（1）JA 鶴岡視察

JA 鶴岡では、まず、鶴岡市の特産物であるただちや豆とただちや豆を使って作った製品を試食した。鶴岡市の食事では毎回配膳されていたただちや豆であったが、獲れたてのただちや豆を試食して参加者は美味しいと言っていた。その後、選果場や梱包の様子、JAでの野菜や青果の販売状況を視察し、細かい規格に基づき生産から販売まで行っている日本の農業に高い関心を示した。また、女性参加者は農作物だけでなく、農作業の閑散期に地元の農家の方々が作成し販売していた頭巾などの縫製物にも目を留めていた。

（2）善寶寺参拝

善寶寺では住職から禅について話を聞き、座禅を体験した。足を組むのが難しく、5分の座禅でも大変そうであったが、参加者からは初めての体験でよかったという声があがった。

（3）加茂水族館視察

加茂水族館長に案内されて、水族館内を視察した。特にくらげの展示エリアは、くらげの浮遊する様子を生かしてライトアップされ非常に幻想的であり、参加者は驚いていた。また、パリ水族館から派遣されていた研修生にも会うことができ、参加者は研修生と加茂水族館でのくらげの調査・飼育・展示方法について熱心に話をしていた。



ただちや豆の栽培を観察



加茂水族館にて研修生との交流

2016年7月26日（火）【松ヶ丘開墾場、羽前絹練視察、帰国前意見交換会】

（1）松ヶ岡開墾場・羽前絹練視察

松ヶ岡開墾場、羽前絹練の視察では、庄内地域が荒地から養蚕業を創業していった歴史と、その歴史を今なお引き継ぎ鶴岡シルクとして庄内の特産品にしている取り組みを見ることができた。参加者は機械や職人さんの動き一つ一つに興味を持ち、積極的に質問をしていた。

（2）帰国前意見交換会

参加者は、前日から意見交換会に向けて4人で議論を行っており、当日は、鋭く建設的な意見を提示し、鶴岡市の職員からは大変勉強になったという感想があった。

議論の内容としては、①駅や空港が町の玄関であり観光の魅力を感じさせる場であるという意識をもつこと、そして、鶴岡市が持っている潜在的可能性を生かすために②視覚的にわかりやすい表示をしたり、③関連情報を紙媒体だけでなくネットを通じて配信したりする必要があり、これは外国人だけでなく日本人観光客も求めていることが述べられた。最後に、日本文化を体験することが旅の目的の一つである一方で、旅行中ずっと日本食や日本の寝具で生活することは外国人に難しいため、④日本文化と一緒に代替案の提示があることが必要だと締めくくられた。



2016年7月27日（水）【慶應義塾大学、庄内観光物産館】

まず、慶應義塾大学の鶴岡キャンパスに設置された最先端のバイオ研究所を訪れ、参加者はクモの糸から多様な素材を作り出す発想や技術に驚いていた。

最後に訪れた庄内観光物産館で、参加者は思い思いに鶴岡市の特産物や工芸品を見てまわった。参加者の中には、鶴岡市の地酒の日本酒を探し求めている姿も見られ、鶴岡の食文化に満足いただけただようであった。

